

アイベック 家庭で消費電力確認 パソコン通じデータ提供

非破壊検査のアイベック(富山市、吉岡裕一社長)は、松栄電子研究所(愛知県豊明市)や富山

国際大学と共同で、消費電力の監視システムを開発した。家庭が消費電力をいつでも確認できるのが特徴。これまでは電力会社からの通知を待つしかなかった。過剰な消費を抑制しやすくなり、節電に関心の高い世帯の需要を見込んでいる。開発したシステムは、

家庭の配電盤に箱形の装置を設置し、電気系統ごと消費電力を計測できる。データをインターネット経由で松栄電子研究所に送り、同社が専用のソフトを使って一覧表やグラフに加工する。消費電力を確認したい場合、松栄電子研究所のサーバーにアクセスし、パソコンでデータを見られる。携帯電話で見るとも可能だ。

今のところ導入費用は「試算ベースで50万円程度」(アイベック)という。同社は5年後をメドに、価格を10分の1程度まで引き下げての販売を目指す。アイベックは6月1日付で社名を富山検査から変更。2010年3月期の売上高は7億5000万円。非破壊検査が約5割、計測検査機器の製造販売が2割を占める。計測検査機器の主力の

地下タンクや埋設配管の漏洩(ろうえい)検査装置は全国に普及しておっている。同社は消費電の主力製品に育てる考えだ。